

2021年4月2日

支援教育係：中村，久保

教務係：大津

美馬牛小学校校内のユニバーサルデザイン（R3構想）

1 はじめに

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測が困難な時代となってきている。このような中、すべての子どもたちに確実に生きる力を身に付けさせ、社会の変化にしなやかに対応していく力をつけることが求められている。しかし、貧困家庭の割合の増加や家庭や地域の教育力の低下、そして子どもの多様化に伴う支援が必要な児童の増加など、解決しなければ大きな壁が立ちはだかっている。

本校でも、特別支援学級在籍の児童の増加や通常学級に在籍しているが支援を要する児童の増加、不登校等が課題となっている。

このようなことから、ユニバーサルデザインを取り入れる中で、私たちが資質向上に努めることはもちろんのこと「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業構築など教師個々の資質向上に向けた研究・研修が不可欠であると同時に、チームで取り組む組織作りが欠かせない。

「予防教育」「その子にあった学び方を選ぶ教育」という美瑛町が培ってきた財産をもとに、本校全職員がチームとなって一人一人の子どもを6年間（就学児及び高校生までの引き継ぎを含むと11年間）見通して育てる組織作りを目指したい。

2 ユニバーサルデザインについて

障がいの有無にかかわらず、すべての子どもの「わかる・できる」を目指した「授業のユニバーサルデザイン」化の教育実践が求められている。「ユニバーサルデザイン」とは、「年齢や性別，国籍，障がいの有無などの条件によって対象を限定することなく，すべての人にとって使いやすく，理解しやすいデザインであること」といった考え方である。このような考え方を学校教育の中心である授業に生かそうという取組が「授業のユニバーサルデザイン」化である。

本校では、「授業のユニバーサルデザイン」化に先駆けて、まずは、「子どもが安心して過ごせ、授業に集中できる環境作り」に取り組んで行きたいと考える。

3 安心して過ごせる環境作りの視点（☆印については美馬牛小学校全体で取り組む）

【情報（刺激）】

◎視覚的な刺激…視覚的な刺激のコントロール☆

◎聴覚的な刺激…聴覚的な刺激のコントロール☆

【座席】

◎学びやすさへの配慮（位置と机椅子の高さ）☆

【もの】

◎整理整頓…物の位置を決める☆

◎教材・教具等

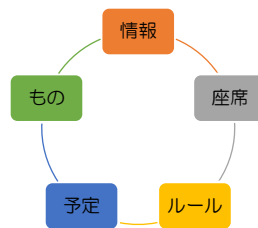
【予定】

◎見通し☆

◎自主性

【ルール】

◎社会性の育成



①視覚的な刺激…視覚的な刺激のコントロール☆

掲示物には、子どもに興味をもってほしい情報を「示し続ける」という役割があります。黒板の周辺にさまざまな掲示物を貼ることは、学習への集中を妨げる視覚的な刺激となってしまうこともあります。視覚的な刺激に反応しやすい子どもには、黒板周辺の掲示物の精選とともに掲示位置の工夫などが有効であると考えられ、刺激の低減は、学びやすい学習環境作りにとって重要な視点です。

また、学習プリント等の児童が扱うプリントやワークシートなどの文字のフォントについては、読みやすく作成することはもちろんのこと、字体は「ユニバーサルデザインデジタル教科書体」をお勧めします。

<学校全体として統一して取り組むユニバーサルデザイン>

☆教室の前面には、最低限の掲示物しか貼らない。

☆複式学級は、2枚の黒板側の視覚的刺激をできるだけ低減する。（必要な情報にアクセスしやすいように）



②聴覚的な刺激…聴覚的な刺激のコントロール☆

教室内は、教師の説明や指示、子どもの話し声のほか、学習に伴う作業の音や机・椅子が動く音など、いろいろな音があります。そのような声や音が多い環境では、他者に聞こえるように自然にボリュームを上げてしまいます。「音が音を呼ぶ」と言われる理由です。教室内ではこうした音が比較的コントロールしやすいのに対し、校内を集団で移動する際の足音や運動場で流す音楽などは、教室の外から音が入ってくるため、音のコントロールが困難です。

大切なことは、そのような音への意識を高めてまわりに配慮できるように、学校全体で共通の理解を持って取り組むことです。自分の発する音や声が、周囲に対してどれくらい影響を及ぼしているかを自覚できるように、音のない静かな環境で学習する経験を重ねる必要があります。このような経験は公共の場などでのマナーや礼儀の習得にもつながるものです。

<学校全体として統一して取り組むユニバーサルデザイン>

☆聴覚的な刺激の低減について

- 児童用机・椅子には脚カバーをつけて防音
- 注目すべき音に音・声を重ねない
- 間接指導時の声の大きさの指導
- 聴覚過敏の児童がいる場合は、水槽ポンプの音にも留意

☆児童の声の視覚化…声のものさしの活用

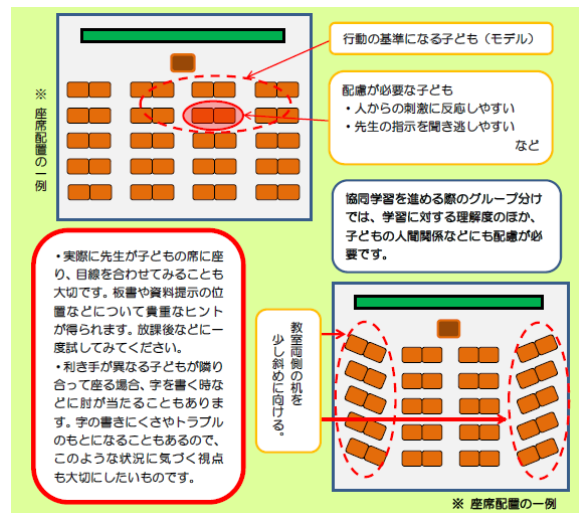
The infographic is set against a light green background and contains several elements:

- Top Left:** A speech bubble containing the text: "状況に適した声の大きさを学べるように、「視覚的」に示してわかりやすく！"
- Bottom Left:** A diagram titled "声のものさし" (Sound Scale). It features a vertical scale from 0 to 4. A cartoon boy's head is shown with a red cone representing his voice. The scale is divided into sections: "心の中で" (In the heart) at 0, "二人で" (With two people) at 1, "グループで" (With a group) at 2, "教室で" (In the classroom) at 3, and "運動場で" (In the gym) at 4.
- Center:** A blue circular icon of a hand pointing to the lips, indicating silence. To its right is a black heart-shaped sign with the text "まっています" (I'm waiting) and a small white character with a sad face. Below the heart is the vertical text "うちわを活用" (Use fans).
- Top Center:** The text "静かになるのを…" (Waiting to become quiet…) is positioned above the heart sign.
- Right Side:** A large speech bubble containing the text: "何度も「お話をやめなさい！」と注意をするよりも、これらを提示した方が、子どもにメッセージが伝わりやすい場合があります。"

☆時間の視覚化
残り時間の提示



参考編
座席…学びやすさへの配慮



入学式に関わる教室設営について

- ・全校的（通常・支援とも）に視覚優位の児童が大変多くなっています。
- ・教室掲示に気をとられ、重要な聴覚的情報の入力に困難が生じることのないように飾り付けの量が過多にならないように留意して下さい。また、教室内の入学式・進級に向けた装飾も翌日からは取り外し、1週間程度を目処に通常の設定に切り替えましょう。

参考資料

大阪市教育センター

「特別支援教育の視点を取り入れた 校内・教室内の環境づくり」

③整理整頓…物の位置を決める☆

学級経営の基本の一つとしての「整理整頓」は、プリント類や文具などを探す時間を減らし、学習を効率的に進める効果があります。校内・教室内の物を置く場所を決めることが整理整頓の第一歩です。そのためには、「何を」「どこに」「どのように」置けばよいのかを誰が見てもすぐわかるように、視覚的に伝える工夫・配慮をすることが必要です。

<具体例>



④見通し☆

言葉だけの指示では取り組むことが苦手な子どもや、初めて経験する活動に対して不安や戸惑いを感じる子どもに対しては「いつ」「どこで」「何を」「どのように」するのかを「見える形」で提示することが有効です。このような配慮は、月中行事や週の予定表とともに、一日のスケジュールや授業の流れなども見える形で提示することで、子どもがわかりやすく安心して自主的に活動できます。また、予定と合わせて準備物などの情報も加えるとより有効です。

急な予定変更に強い不安や戸惑いを感じる子どもには、全体への指示・説明だけでなく、個別的な支援として変更した内容を記したプリントやメモなどを渡すことも効果があります。

<学校全体として統一して取り組むユニバーサルデザイン>

☆1日のスケジュールの視覚化

- ・時間割（教科）

※給食や掃除タイム、場所についても表示されていると一層効果的

